

《令五年度 暗唱⑥》

「桐壺」 (「源氏物語」より)

むらさきしきが
紫式部

いづれの おんときにか
にようご、こうい
あまた さぶらひ たまひける なかに
いと やむごとなき きはには あらぬが
すぐれて ときめきたまふ ありけり。

《今いまの言葉ことばで言ういと・・・》

どの 帝みかどのころだったか、 女御にようご、
更衣こういが何人なんにんも仕つかえていらっしやる
なかに、たいして高たかい身み分ぶんではない
方かたで、とりわけ 帝みかどの寵愛ちようあいを受け
ていた方かたがありました。

